

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1090400266		
法人名	介護センターななくさ株式会社		
事業所名	グループホームななくさ伊勢崎美茂呂		
所在地	群馬県伊勢崎市美茂呂町3973-3		
自己評価作成日	平成30年1月12日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人群馬社会福祉評価機構		
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12		
訪問調査日	平成30年2月5日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者ひとりひとりに寄り添い関わり合いながら安心して生活を送れるように支援しています
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は利用者が終生健康でいられるように、散歩、体操、手の運動、ペダルこぎ、脳トレ、脳リハ等を日々の生活に取り入れ、運動することで安眠できるようにしている。そうしたなか、80歳~100歳の5名の方は車いすで自走し、104歳の方は歩行器で歩行し生活している。また、一人ひとりのこだわりにより寄り添ってさりげないケアを心掛け、希望に添えるように自立を支援している。排泄は、立位が取れない人を除いて昼夜とも、トイレでの排泄を支援している。食事は、食堂にて自分の箸と自分の湯呑を用い、一人ひとりのペースで食べている。その他、家族の協力のもと、日帰りや泊りで自宅に帰ったり、県外のイルミネーション見学をしたり等の外出を支援している。重度化や終末期に向けた事業所の方針を入居時に家族へ説明し、看取りも可能な施設であることを伝えている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員との話し合いのもと、理念をつくり共有している。またそれを玄関に掲示し、来所者にも知って頂けるようにしている。	開設時の理念を平成28年に別法人となっても引継ぎ、その実現を目指し別法人となっても継続して勤務している職員もいる。理念をもとに、自分の家だと思ってもらえるように食事づくりは利用者からみえる場所で会話をしながら行ったり、気持ちが高ぶる方には安心感を持ってもらえるようにボディタッチをしたりなど、日々の対応に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入して習作展へ作品を出品したり交流を図っている。	運営推進会議のメンバーや介護相談員の定期訪問はあるが、近隣の方の訪問は少ない。また、寒い時期などは、散歩に出かけて近隣の方と交流する機会がない。地区の公民館主催の習作展には、利用者の塗り絵を出品している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域貢献するまでには至っておらず、今後より地域との交流を図り、貢献できるように努める。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族様、区長、民生委員、市職員に参加して頂き、2ヶ月毎に開催し、状況報告や課題を相談してサービスの向上に活かしている。	会議は2ヶ月毎に開催され、家族や自治会の方、市職員の参加があるが、会議内容は事業所の行事や外出、レクリエーション活動、受診状況等の報告や、これらの情報交換となっている。欠席した家族には、議事録ノートをいつでも閲覧できるようにしている。	報告だけでなく、参加メンバーに発言していただけるような話題作りやしくみを工夫し、双方向的な会議になる事を期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	毎月、市の介護相談員を受け入れサービスの取り組みを伝えている。	市の担当者には、運営推進会議に参加していただき、報告や相談をしている。また、月始めには空床状況を報告している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止マニュアルを作成し、職員の理解を促し、身体拘束を行わないケアに取り組んでいる。また、日中は玄関等の施錠をせず開放している。	ベッドから足を出しずり落ちてしまった利用者に対し、1時間位の間ベッドを柵で囲み安全を確保したが、どうしたらいいかを話し合い、柵を減らす工夫を考えた。外に出たい方がいるときは、一緒に付き添って外出している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待の報道があれば新聞記事を貼りだし、注意喚起をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会などへの参加を促し制度について学ぶ機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所の見学から申し込み時まで、不安や疑問点が残らないように、利用契約書、重要事項説明書を使って十分に説明し、理解・納得を頂いたうえで契約をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来所時などに、近況を話し意見や要望を聞いている。また、玄関に意見箱を設置している。要望や意見があれば運営推進会議等で話し合い運営に反映している。	家族の面会の頻度は多く、何でも言ってもらえるような雰囲気づくりに留意している。家族からカンミアのセーターの洗濯方法の要望について応えたり、利用者から電気あんかの使用希望について職員間で話し合い、火傷の危険性を考慮して湯たんぽを提案したりして、実現に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	申し送りノートを使ったり、日頃から会話する機会を設けて意見や提案を反映させている。	日頃から、職員は勤務時間表の組み方、備品の補充等について要望や現状を管理者に伝え、必要に応じて管理者が代表者に連絡している。管理者は、職員とよく話すようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	採用時に勤務に関する要望を聞いている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修を受けられるように整備している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の他事業所と交流する機会を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスの利用開始にあたって、不安や困難なことをご本人様から直接話を聞き、それを解消できるように支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスの利用開始にあたって、入所を決めた経緯や入所後の不安なことがないかを聞き、それを解消できるように支援している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスの利用開始前、開始後もご本人様の状況等をよく見極め、入所が妥当かまた他のサービス利用も慎重に検討するようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る範囲で日常生活における家事等の手伝いを職員と一緒に行って頂き、共に生活する環境を整えている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日常の様子を伝えたり、面会の促しを行い、現状を知って頂き、よりよい関係を築いて頂けるように支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会等を促したり、ご家族様と外出していただいたりして、馴染みの人との関係性を継続できるように支援している。	利用者の関係者が来やすい雰囲気にし、利用者の意向をよく聞くようにしており、そうしたなかで、薬をもらいに行くときに自宅に行ったり、行きつけのレストランで好物を食べたり、これまでの関わりが途切れないように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者様ひとりひとりの性格や状況などに配慮しながら、職員が間に入り良好な関係を築けるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	まだサービス利用が終了された方がいらっしやしないが、今後の対応を検討している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所時のアセスメントや日常の会話などから要望等を把握し希望に添えるように支援している。	日常の会話やレクリエーション、作業をしているときに要望を聞きとり、思いや意向を把握し、職員で情報を共有している。その人の性格や特性をつかむようにし、一人ひとりのこだわりを寄り添ってまずはやってみて、希望に添えるように工夫しながら支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時のアセスメントや日常の会話、面会時にご家族から話を聞いて生活歴を把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の状態や会話など気付いたことを個別記録に記入し、状態の変化などを把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の状態や会話など気付いたことを日頃から話し合いの時間を設けて計画の作成に取り組んでいる。計画は家族に説明・話し合い、現状に合わせた計画を作成している。	施設サービス計画書は家族の同意を得て交付している。ケアマネジャーは課題から目標を作成し、短期目標の期間は1年間でサービス内容も実践と連動し詳細に書かれている。モニタリングは毎月行ない、家族に説明、押印してもらい交付している旨記載されている。	モニタリング表に家族の押印をいただくことを活かすのであれば、家族が見てもわかりやすいモニタリング用紙を整備する事を期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の状態や会話など気付いたことを個別記録にその都度記入することで、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外出支援や通院援助などニーズに合わせて柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の学校行事の見学や、警察・消防等への協力要請を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人様、ご家族様の希望に合わせて、かかりつけ医を決定していただき、受診の際には付き添い情報提供し、適切な医療を受けられるように支援している。	全員の利用者が近所の協力医(内科・循環器科)の受診を希望し、月に1回の定期受診は職員がお連れして、日常の様子を伝えている。なお、訪問看護師も同席し専門的立場から情報提供して、適切な医療を受けられるように支援している。その他の専門医や歯科受診は、原則家族がお連れしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションと連携し、日常の健康管理、緊急時の対応を依頼している。また、医療機関への連絡等も行っていただいている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関及び訪問看護ステーションと連携を取り、早期退院や退院後の治療を行えるように体制を整えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期の指針を重要事項説明書に記載しており、契約時に説明して話し合い、希望に添った支援を行えるように取り組んでいる。	入居時に、事業所の終末期の指針について重要事項説明書で家族に説明し、同時に終末期の看取りについて事前確認書(希望する医療・場所、蘇生・告知等)で同意をいただいている。状態の変化時には再度確認し、希望に添った支援を行えるよう支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急処置マニュアルを整備している。また、提携している訪問看護ステーションに緊急時の対応を依頼している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を行い現状のような対策が必要か検討中である。今回は夜間を想定した訓練を実施している。	今年度の避難訓練は、5月と11月に実施している。11月は消防署立ち合いのもと、夜間想定で、通報、避難誘導、消火器等の作動訓練をしている。訓練への近隣住民への呼びかけはしていない。国内の災害記事を職員向けに貼り出し、意識づけを図っている。	災害時には、近隣を含め外部の人達の協力が不可欠であるので、日頃から地域との協力体制の構築を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	各居室に洗面台があり、口腔ケアやみだしなみ等個別援助をしてプライバシーの確保を行っている。	利用者のこだわりに寄り添って、さりげないケアを心掛けている。着替えはドアを閉め、各自の居室にて行ない、口腔ケアや義歯の洗浄も他者に見られたくないという利用者の気持ちを配慮して、居室の洗面台で行っている。職員は、居室への訪問時はノックをしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	外出先や行いたい事など、希望を聞きながら支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の体調や気分を考慮し、ひとりひとりのペースに合わせて支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人様にタンスより衣類を選択して頂いたり、各居室にある洗面台の鏡で身だしなみを整えて頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ひとりひとりご自分の箸や湯呑を使って頂き、楽しんで食事をして頂けるように支援している。	献立、食材は食材業者を利用し、職員が調理している。オープンカウンターを挟んで居間と調理場が配置されているので、利用者は、作っている調理の様子を見たり、音や匂い等の五感刺激を受けたりしている。また、じゃがいもの皮むき、いんげんのすじ取りなど出来る手伝いをし、ランチョンマットを敷いて、自分の箸と湯呑を用い食事をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量、水分摂取量などをひとりひとり記録に記載し、1日を通して把握して、不足などがあれば健康状態を確認している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	各居室にて、能力に応じて個別に口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の記録をとり、排泄のパターンを把握してひとりひとりに合わせた支援をしている。	トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。その結果、超高齢者が多いが、7割の方は日中にご自分の意思でトイレで排泄している。居室にポータブルトイレは置かず、夜間になると3人の方はトイレまで誘導している。疾患で立ち上がれない方は、おむつ対応となっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	散歩などの適度な運動をして頂き、水分量の不足しているご利用者様には水分摂取の促しをしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ひとりひとりの希望に応じて入浴時間の長さなどを調整している。入浴を楽しんで頂けるように季節に合わせて柚子湯など提供している。	週3回、午後に入浴していただいている。個浴が基本であり、一人ひとりの希望に応じて、入浴時間の長さや湯の温度調整を行い、入浴を楽しめるようにしている。また、季節に合わせてゆず湯、しょうぶ湯などを提供している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣に合わせて就寝時間を調整したり、日中に散歩や体操など適度に体を動かして頂き、安眠できるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬している薬の効能や副作用をファイルして閲覧できるようにしている。また異常等があれば訪問看護ステーションより医療機関に連絡をして頂いている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や能力を把握して、できる範囲での役割を設けて張り合いのある生活をして頂けるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	体調や天候に合わせて、積極的に散歩などの外出を支援している。また、ご家族の協力の下遠出をして頂くこともある。	季節ごとに花見に出かけたり、近所の神社に初詣に出かけたりしている。初市には、利用者の代表が数名出かけてだるまを購入し、レクリエーションの時間に各自のだるまに目を入れた。その他、家族が利用者につき添って、自宅に日帰りや1泊したり、県外にイルミネーションを見に行ったりしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様の同意を得た上で、能力に応じた管理や使用をして頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持参され、時間などの配慮をしながら、ご家族様や知り合いと電話いる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂を季節感あるように飾ったり、廊下などに鉢植えを飾ったり、居心地の良い空間になるように工夫している。	廊下の壁には、お花見やだるま市等外出時の写真、室内での風船バレーや孫との楽しいひととき・避難訓練の写真、塗り絵等が飾られており、親しみのある共用空間となっている。100歳の利用者の誕生を祝う新聞記事や伊勢崎市で最高齢の入居者の記事も、壁に貼られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下のソファなど思い思いの場所で過ごして頂けるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所以前に使用していた家具や布団などを持ってきていただき、居心地よく過ごして頂けるように配慮している。	居室入口には、○○様と書かれた表札と一人ずつ異なった暖簾がかけられている。室内には、今日の日づけが確認できるように手作りの日めくりカレンダーが掛けられて、自分でめくる方もいる。日課にこだわりのある方の部屋には、日課表を貼っている。利用者が這って移動できるように、畳が敷かれている部屋もある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下に手すりやソファ等を配置し、歩きやすくしている。また自室に表札をつけ、混乱や失敗を防いでいる。		